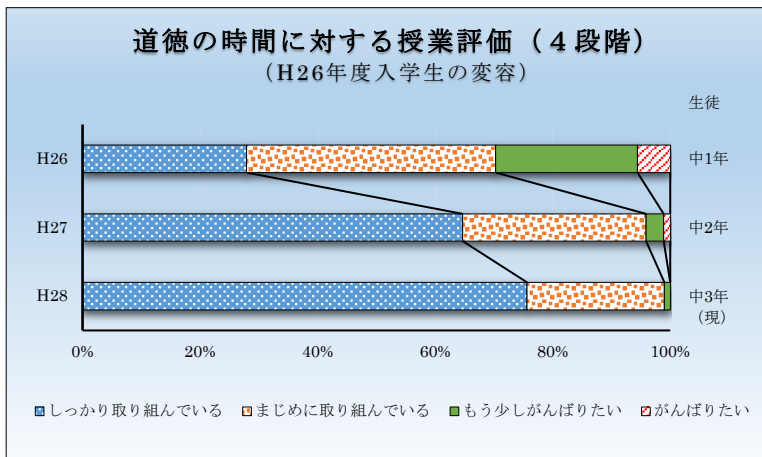


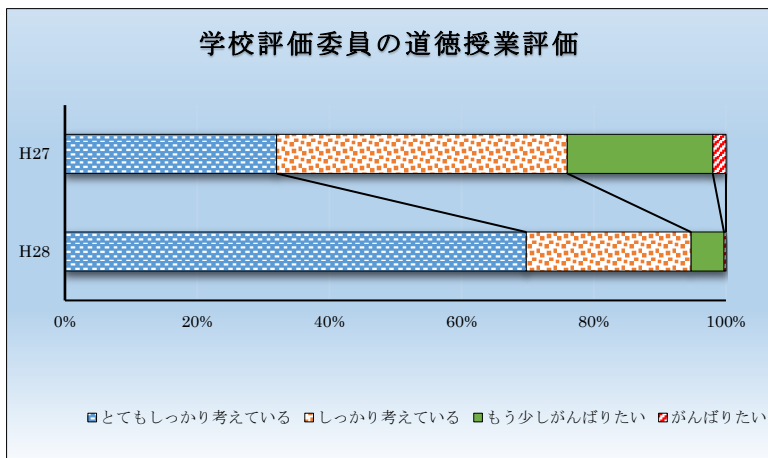
### Ⅲ 成果と課題

研究主題「豊かな感性を育み、ともによりよく生きる児童生徒の育成」のもと、改正学習指導要領の具現化「考え、議論する道徳」の実現に向けて研究を進めてきた。中学校区としての研究指定の強みは、一人一人の児童生徒の成長に焦点をあてた道徳科への理論理解を出発点に、発達段階に応じた、学校種間の円滑な連携・接続体制を構築し、全教職員による一貫性のある道徳教育を推進できたことにある。

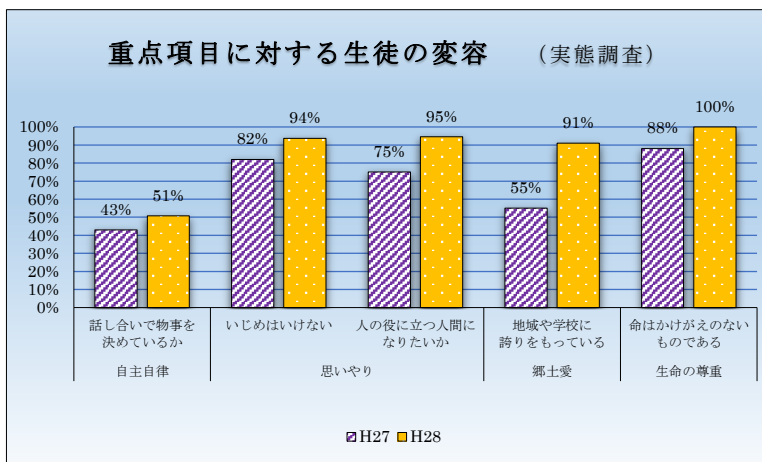
〔生徒の変容〕



・「豊かな情操と思いやりの心を持ち、集団や社会の一員として自ら考え判断し行動できる生徒」と、目指す生徒像を小中で掲げて、授業改善に取り組んだ。中学3年の授業評価は、「しっかり取り組んでいる」、「まじめに取り組んでいる」が98%と高い。「道徳の授業が楽しみになった。」という感想も聞かれ、多様な指導方法による授業改善が、主体的に考える姿勢につながったことがうかがえる。



・児童生徒の道徳性を育成する土壌となる家庭地域との連携に力を注ぎ「道徳だより」等の情報発信、参加型参観日、地域教材の開発、地域人材の活用等の多様化を図った。大仁中の学校評価委員会から、道徳授業の改善が挨拶や手伝い、地域貢献活動に励む児童生徒の原動力につながっているとの評価を受けた。また、地域の協力と支えも大きな力となっている。



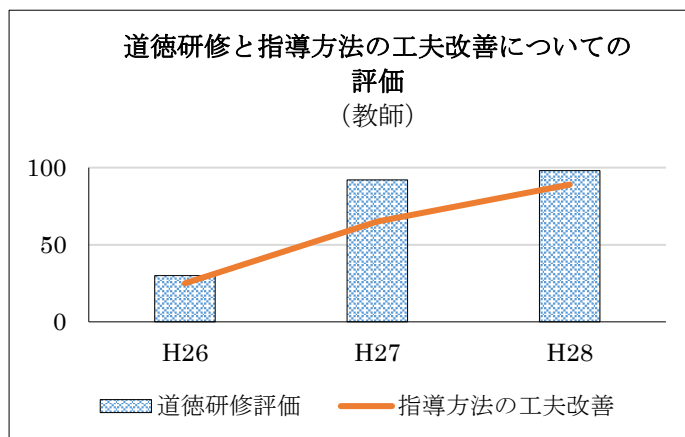
・地区の実態から、4つの重点項目で、小中連携カリキュラム作成し、共通5行事の体験を生かす教育課程や別葉の修正を行い道徳授業を意図的計画的に実施した。中学3年の学力学習状況調査では「自主自律」「思いやり」「郷土愛」「生命の尊重」の伸びは高く、ねらいとする道徳的価値の理解が深まったことが分かる。それにより、自分自身を見つめ、肯定的な考え方につながってきた。

〔教師の変容〕

道徳科への移行期であり、赤堀教科調査官のご指導をいただく機会に恵まれ、教師集団の道徳教育への意識が高まったことが、一番の収穫といえる。学校経営の軸に道徳を据えたことで、全教職員が道徳科への移行に向けた研究を進めていくことに課題意識をもって授業に臨んだ。組織的に交流することによって、児童生徒のよさを感じたり、集団とのつながりを深めさせたりするなど、児童生徒理解の力も向上してきている。具体的には、小中における相互授業参観や合同部会を通して、児童生徒の発達段階の把握、改正学習指導要領の理論の理解、道徳的価値の系統性を捉えた授業改善に取り組むことができた。自己肯定感の高まりと地域の温かなまなざしが応援団となっている。

『教師アンケート抜粋』

- ・全体計画、別葉の重要性が認識でき、活動や各教科等の特質と道徳教育の有機的関連が実感できた。
- ・価値観、児童生徒観、教材観を確立することが大切。思いを込めて道徳の授業に臨みたい。
- ・評価を通して、教師も児童生徒も自分との関わりで考える授業を展開した。自分を向上させていこうという意欲が高めることができた。



<伊豆日日新聞 平成 28 年 9 月 25 日>

**地域、学校で健全育成**

伊豆の国市立花 市川幸子(55)

地元の大仁の商店街では、15年ほど前から地域のイベントでのボランティアスタッフをしている男子生徒の大仁中に要請して、今年夏祭りの翌日、片付けにも参加し、商店会の方々に「梅まつり」で私たちの販売活動をする、地域で子どもを育てようとする一つの取組みである。そして、大仁中も生徒の地域貢献に力を入れており、先生方はイベントの度に顔を出してくださり、子どもたちに声を掛けていく。

希望して集まってくれた生徒たちは、夏祭りやタオルで汗を拭きながら、また、2月の

梅まつりでも、寒さに負けず声を張り上げ、販売活動に参加してくれる。その若いパワーに驚き、さわやかな生懸命さに尊いものを感じている。

今年夏祭りの翌日、片付けにも参加し、商店会の方々に「梅まつり」で私たちの販売活動をする、地域で子どもを育てようとする一つの取組みである。そして、大仁中も生徒の地域貢献に力を入れており、先生方はイベントの度に顔を出してくださり、子どもたちに声を掛けていく。

希望して集まってくれた生徒たちは、夏祭りやタオルで汗を拭きながら、また、2月の

くす。働くことの楽しさ、大変さ、大切さを経験することは、この年齢の生徒たちにとって、実に貴重な体験であると思う。青少年の健全育成という言葉があるが、まさに地域と学校が一体となつての取組みが15年続いていることが、素晴らしいと思う。

今後は、学校と家庭や地域との連携を一層深めて共に道徳教育を進めていくという意識を高め、地域ぐるみでの道徳教育を推進していきたい。さらに、各校の特色を生かした全体計画や、各学年の指導目標を明確にした授業や評価の改善を図って魅力的な道徳授業を創造し続けることで、「特別の教科 道徳」への地盤づくりを進めていきたい。